

1月9日(土)にSSH学校公開が行われ、1年生は災害研究、2年生は課題研究について発表を行いました。学校外からも多くの方が参加し、専門的なアドバイスなどを頂きました。今回は学年ごとにその内容についてお知らせします。

<1 学年>

1年生は、計64班が、災害研究のポスター発表を行いました。1学年にとって、今回のようにたくさんの校外の方々の前で発表を行うのは初めてのことでしたが、自分たちがそれぞれでテーマを決定して10月から取り組んできた研究の成果を分かりやすく伝えることのできた班が多かったのではないかと思います。今回の経験を、二年次の学術研究SAB・課題研究に活かしていければと思います。



<2 学年>

2年生は、物理、化学、生物、地学、数学、情報、国語、地歴、公民、英語、保体、音楽、家庭の13のゼミに分かれ、5月頃からほぼ10カ月にわたって、昨年度の学術研究基礎での経験を踏まえた、より専門的な内容に関する研究を文系・理系に関わらず行ってきました。全体を通して、1人1人に対してより豊富な知識が要求されるような研究内容が多く、必然的に質問も高度なものとなりがちでしたが、班員で協力して知識を出し合い、対応する様子も見られ、各々が自分なりに研究を深く理解しようと努めていることが感じられました。



<講評>

鈴木陽一先生(運営指導委員長)

鈴木先生からは単なる調べ研究ではなく実際に会いに行ったり積極的に実験をしたりしているのがみられた一方で、実験の設計をもう少し研究したり、アンケートなどの結果に出ている数字に統計的な意味があるかといったよいのかなどを検討するために、統計学を勉強してみればもっと良い研究になると思うとアドバイスを頂きました。また今年度の学校公開では文理融合研究など一高生らしい研究が増え、研究に多様性が出てきたので、これからそういう研究がどんどん増えていけばよいと仰って頂きました。

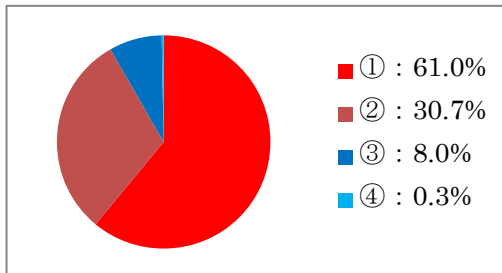


<アンケート結果>

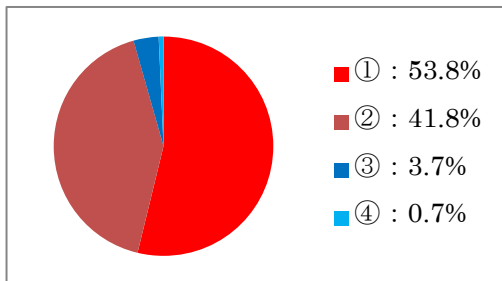
学校公開についてのアンケートの中から抜粋して結果を報告します。

①:よくあてはまる ②:あてはまる ③:あまりあてはまらない ④:まったくあてはまらない

- ・他者の研究をもっと深く知りたいと思った。



- ・総合的にこの発表会に満足した。



<感想>

- ・人前で発表するのはとても緊張したが伝えたいことは伝えられたように思った。矛盾点など、いろいろな問題が出てきたが、できる限り対処することができたと思う。冬休みを挟んでしまったので、原稿作りや、みんなでの読み合わせなど、とてもバタバタしてしまい、忙しかった。2年生の発表を見ることで来年の参考にもなった。どのようなゼミでどのような研究を行うかを、これからじっくり考えていきたい。
- ・今回の学校公開ではいかに聴衆の目を引くポスターにできるか工夫することが大切だと感じた。言葉では説明が難しいことを図や表を使ったり、ポスターの書体なども更に工夫したりすることが必要だと感じた。個人研究だったため1人で質問などに適切な返答をすることができないこともあったが、大学の先生から専門的なアドバイスを頂くことができて今後の研究の参考になった。

<編集後記>

1年生は来年度の学術研究SABでの活動に向けて、今回の発表会で学んだことをよく咀嚼し、よりよい研究が行えるようにして行ってほしいと思います。2年生は、学術研究の活動は今年度で終了となりますが、2年間にわたる活動で培われた能力は、今後の高校生活、ならびにその先の生活においても役に立つものとなるのではないのでしょうか。

また、1月23日、24日には青森県八戸で開催された東北地区SSH指定校生徒発表会の代表として、化学ゼミ2班(S)「カフェインの定量と抗菌作用」、物理ゼミ1班(S)「Direction-Dependence of Cosmic Rays by Observing Air Shower」家庭ゼミ1班(B)「高齢者の自立と共生」、および災害研究D部門9班「蔵王連峰噴火時火砕流の被害」の計4つの研究が選ばれ、発表を行ってきました。